

## 第6学年 音楽科学習指導案

令和元年12月3日（火）第5校時

### 1 題材名 日本と世界の音楽に親しもう

### 2 題材について

#### (1) 題材にかかわる児童の実態

省略

#### (2) 本題材における指導

本題材では、日本に古くから伝わる歌と楽器の音色を味わって、聴いたり歌ったりする。その際、ただ音階をなぞって歌うだけではなく、雅楽「越天楽」の鑑賞を通して感じ取ったことを「越天楽今様」の歌で表現できるようにする。その表現活動を充実させるために、まず「越天楽今様」を階名唱して旋律を覚え、その歌を録音しておく。そして雅楽「越天楽」を鑑賞し、楽器の役割や演奏の形態、時代背景等について学ぶ。そこで感じ取った雅楽の雰囲気や良さをグループごとに「越天楽今様」の歌で表現する、という活動を通して、子ども同士のアナリーゼによってどのような変化、表現の工夫ができたかを確認できる。そのうえで諸外国の音楽を鑑賞し、それぞれの国の音楽の特徴を感じ取りながら、自国・他国の音楽を尊重する態度を養っていく。

### 3 題材の目標

(1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図にあった表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けるようにする。 (知識及び技能)

(2) 音色、リズム、旋律、拍、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい歌唱表現を工夫し、思いや意図をもつことができるようにする。(思考力、判断力、表現力)

(3) 音色、リズム、旋律、拍、速度の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む態度を養う。 (学びに向かう力、人間性等)

### 4 教材について

#### ◎「越天楽」

中国の唐の時代に「唐楽」が日本に渡り、朝廷が公的な音楽として「雅楽」を管轄するようになった。「越天楽」は原曲がその唐楽にあるとされる（日本で作曲された、という説もある）。大きく吹物（管楽器）、打物（打楽器）、弾物（弦楽器）の三種類で編成され、日本独自の楽器の音色、旋律、リズムなどを感じ取ることができる。また、既習の西洋楽器、交響曲との比較をすることでそれぞれの良さも感じ取ることができる。

<鑑賞に使用する CD・DVD>

「雅楽 特選」(宮内庁式部職楽部演奏、ビクター伝統文化振興財団、2005年)

「雅楽ってなあに?子どものための雅楽」(伶楽舎演奏、伶楽舎、2016年)

「雅楽 越天楽」(宮内庁式部職楽部演奏、公益財団法人音楽鑑賞振興財団 学校音楽鑑賞用 DVD 教材、2014年)

◎「越天楽今様」 慈鎮和尚 作歌/日本古謡

平安末期から鎌倉時代の高僧である慈鎮和尚によって「越天楽」の旋律に歌詞をつけられたものとされる。現存する日本最古の歌謡とされ、日本の伝統的な音階による簡潔で優雅な旋律であるが、正確な歌い方は定かではない。だからこそ、子どもたちが「越天楽」の鑑賞から感じ取った楽曲の特徴を生かして「越天楽今様」の歌で雅楽らしい雰囲気表現を試すことができる。

○楽器による世界の国々の音楽

(バグパイプの演奏・メヘテルハーネ・アルフーの演奏・フォルクローレ・ガムラン)

諸外国の楽器の演奏を鑑賞することで、身近ではなかなか見ることができない楽器の音色に親しんだり、その国の音楽のよさを感じ取ったりすることができる。また、日本の楽器や音楽文化と比較することで自他国の楽器や音楽文化を尊重する態度を養うこともできる。

5 学習指導要領の指導事項と【共通事項】の関連及び具体的な学習内容

指導事項	歌唱ア 曲の特徴にふさわしい歌唱表現を工夫し、思いや意図をもつこと ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。 (ア) 聴唱・視唱の技能 (イ) 自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能 (ウ) 声を合わせて歌う技能 鑑賞ア 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。						
共通事項ア	音色	リズム	旋律	拍	速度	反復	変化
主な学習活動	雅楽や諸外国の楽器の音色を聴いて、特徴や違いに気づく。	・雅楽や諸外国の独特のリズムに気づいたり、雅楽のリズムを生かして歌ったりする。	・雅楽の旋律に使われていく音の特徴をとらえて歌う。	・DVDで唱歌の拍子の取り方を見て、雅楽の拍の特徴に気づく。	・雅楽の速度の特徴に気づいたり、諸外国の音楽の速度の違いに気づいたりする。	リズムや旋律が繰り返されることに気づく。	リズムや旋律などが反復した後異なるものが続く変化に気づく。

## 6 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材 の 評価 規準	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 <b>【知識】</b> 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌唱で表現している。 <b>【技能】</b>	音色、リズム、旋律、拍、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい歌唱表現を工夫し、思いや意図をもっている。	音色、リズム、旋律、拍、速度の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。
1時	○ (知)		○
2時	○ (知)	○	
3時	○ (技)	○	
4時	○ (知)		○

## 7 題材の指導計画・評価計画（4時間扱い）

	◆ねらい ○学習内容・学習活動	●評価規準 (評価方法)
1	◆「越天楽今様」の歌詞の意味や曲想について考えることができる。 ○「越天楽今様」の歌詞の内容を理解する。 ・歌詞の意味を当時の時代背景とともに確認する。 ・想像した情景について話し合う。 ○「越天楽今様」の階名唱をする。 ・歌い方を工夫していない階名唱を録音する。	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 <b>【知識】</b> (ワークシート) ●リズム、旋律の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> (ワークシート、発表の様子)
2	◆雅楽「越天楽」の楽器や曲の構造の特徴について考え、それらのよさを感じ取ることができる。 ○雅楽「越天楽」をDVDで鑑賞し、楽器の響きや曲想を感じ取る。 ・雅楽の楽器の音色、リズム、旋律、拍、速度、それらの反復や変化を感じ取りながら聴く。 ・気づいたことや感じたことについて話し合う。 ・演奏の形態や楽器について確かめる。 ・楽器の役割や音楽を形づくっている要素に注目しながら改めて鑑賞する。	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 <b>【知識】</b> (ワークシート) ●音色、リズム、旋律、拍、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 <b>【思考・判断・表現】</b> (ワークシート、発表の様子)

<p>3 (本時)</p>	<p>◆感じ取った雅楽の世界を「越天楽今様」の歌で表現することができる。</p> <p>○1・2時で感じ取ったり話し合ったりした「越天楽今様」の歌詞の情景、雅楽の雰囲気や歌で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時で歌った階名唱の録音を聴く。</li> <li>・前時が学習した「越天楽」の曲想等について確認する。</li> <li>・グループで「越天楽今様」の歌い方の工夫について話し合い、曲想に合う歌い方を試す。</li> <li>・グループ同士で聴き合い、どんな思いや意図が感じられたか話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けた自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌唱で表現している。【技能】(歌の発表の様子、ワークシート)</li> <li>●曲の特徴にふさわしい歌唱表現を工夫し、思いや意図をもっている。【思考・判断・表現】(話し合い・歌の練習の様子、ワークシート)</li> </ul>
<p>4</p>	<p>◆諸外国の音楽の特徴や違いに気づき、それらのよさを感じることができる。</p> <p>○それぞれの国の楽器やその音色に関心をもって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の音色の特徴や雰囲気の違いなどに気を付けて音楽を聴く。</li> <li>・音楽の特徴や演奏の良さについて聴き取ったり感じ取ったりしたことを話し合い、それらについて音楽を聴いて確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。【知識】(ワークシート)</li> <li>●音色、リズム、旋律の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(発表の様子、ワークシート)</li> </ul>

8 本時の学習指導（3 / 4 時）

(1) 目標 感じ取った雅楽の世界を「越天楽今様」の歌で表現する。

(2) 評価規準

●思いや意図にあった表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けた自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌唱で表現している。【技能】

●曲の特徴にふさわしい歌唱表現を工夫し、思いや意図をもっている。【思考・判断・表現】

(3) 展開

○学習内容・学習活動	・指導上の留意点 ●評価規準 ◎予想される児童の反応
<p>○ 発声練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸、頭声発声、発音の練習をする。</li> <li>・「越天楽今様」の歌詞を音読する。</li> </ul> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢、表情にも注意させ、無理のない頭声とはきはきとした発音を心がけさせる。</li> <li>・歌唱表現の工夫の幅が広がるように、頭声発声だけでなく、胸声や地声の発声も行う。</li> <li>・前時で確認した歌詞の意味等が書き込まれた歌詞の拡大コピーを掲示して本時のめあてを具体的に捉えられるようにする。</li> </ul>
<p><b>感じ取った雅楽の世界を「越天楽今様」の歌で表現しよう</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に学習した雅楽「越天楽」の感想を振り返る。</li> <li>・第1時の録音を聴く。</li> </ul> <p>○グループ（6人×5）で歌唱表現の工夫を考え、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雅楽「越天楽」で感じ取ったことや歌詞をもとにどのような歌唱表現ができるか話し合う。</li> <li>・考えた歌唱表現を試しに歌い、その都度改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の鑑賞で児童が書いた文をまとめたプリントを配布したり前時の鑑賞で出たキーワードを黒板に掲示したりすることで雅楽「越天楽」から感じ取ったことを振り返りしやすくする。</li> <li>・グループごとに歌詞が書かれたワークシートを配布し、そこに歌唱表現の工夫を書いた付箋を貼れるようにする。</li> <li>・歌唱表現の工夫に使えるように、これまでの歌唱で積み重ねた歌い方の工夫が書かれたカードを用意し、話し合いの参考にさせる。</li> <li>・一人「聴き役」を設け、工夫が表現できているかを確認させる。</li> </ul>
<p>●曲の特徴にふさわしい歌唱表現を工夫し、思いや意図をもっている。【思考・判断・表現】（ワークシート、話し合い・歌の練習の様子）</p> <p>【A 規準に達した児童の状況】</p> <p>雅楽「越天楽」で感じ取ったことや歌詞をもとに歌唱表現を考え、歌で表現することができる。</p> <p>◎「雅楽がゆったりとした雰囲気だったから、たっぷりブレスして、ゆっくり歌おう。」</p> <p>◎「リズムを合わせるために、唱歌（しょうが）の拍の取り方を真似して歌ってみよう。」</p> <p>【B 規準に達した児童への手立て】</p> <p>工夫したい箇所をどのように表現すればよいか、歌の工夫カードを参考に考えさせたり、聴き役に回らせて表現方法を確認できるようにしたりする。</p> <p>【B 規準に達していない児童への手立て】</p> <p>これまでの歌唱練習で積み重ねてきた歌唱表現の工夫が書かれたカードを用意し、それを参考に工夫を考えさせたり、鑑賞のまとめプリントを見返させ、どこを工夫できそうか助言したりする。</p>	

<p>○グループごとに考えた歌唱表現を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌う側はどのような意図や思いを込めてどのように歌うかを説明してから発表する。</li> <li>・聴く側は、どのような意図や思いが聴き取れたかを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りで使えるように、発表している様子を歌声だけでなく呼吸の取り方、拍の取り方、表情等も確認できるようにタブレットで撮影する。</li> <li>・聴く側は、どのような意図や思いが聴き取れたかを付箋に書き、発表したグループに渡せるようにする。</li> </ul>
<p>●思いや意図にあった表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けた自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌唱で表現している。【技能】 (歌の発表の様子、ワークシートでの振り返り)</p> <p>【A 規準に達した児童の状況】 ワークシートに書かれた表現方法で歌うことができる。</p> <p>◎腹式呼吸でたっぷりブレスし、フレーズの終わりまで歌詞をはっきり発音している。 ◎統一された声色で、響きある頭声発声ができている。</p> <p>【B 規準に達した児童への手立て】 ワークシートの振り返り欄に、表現しようとしていたことへの称賛のコメントと、それをより良く表現するための技能に関するコメントを記入する。</p> <p>【B 規準に達していない児童への手立て】 ワークシートの振り返り欄に、表現しようとしていたことへの称賛のコメントと、それを表現するための技能に関するコメントを記入する。</p>	
<p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他グループから受け取った付箋と発表の録画を見て、どのような歌唱表現ができたかを振り返らせる。</li> <li>・時間があれば、自分の振り返りの内容や、特に印象に残ったグループの工夫とその良さについて発表させる。</li> </ul>

## 9 板書計画

<p>日本と世界の音楽に親しもう</p>		<p>「越天楽今様」の歌詞 と、第一時に児童が読み 取った意味や情景につ いて書かれた模造紙</p>
<p>めあて</p>		
<p>感じ取った雅楽の世界を「越天楽今様」の歌で表現しよう</p>		
<p>前時の鑑賞で出た キーワード</p>	<p>歌い方の工夫 カード</p>	